

岩手大学獣医学部・東京農工大学農学部
共同獣医学科
設置の趣旨等を記載した書類

目 次

1	設置の趣旨及び必要性	3
1-1	岩手大学獣医学部の設置の趣旨及び必要性	3
1-2	岩手大学獣医学部・東京農工大学農学部共同獣医学科の設置の趣旨 及び必要性	7
2	学部・学科の特色	12
3	学部・学科等の名称及び学位の名称	16
4	教育課程の編成の考え方及び特色	17
5	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	23
6	実習の具体的計画	24
7	就業体験実習（学外実習）の具体的計画	26
8	取得可能な資格	27
9	入学者選抜の概要	27
10	教育研究実施組織の編成の考え方及び特色	30
11	研究の実施についての考え方、体制、取組	32
12	施設、設備等の整備計画	33
13	2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画	35
14	管理運営	35
15	自己点検・評価	36
16	情報の公表	38
17	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	40
18	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	41

岩手大学獣医学部・東京農工大学農学部共同獣医学科 設置の趣旨等を記載した書類

1 設置の趣旨及び必要性

1-1 岩手大学獣医学部の設置の趣旨及び必要性

岩手大学では「岩手大学ビジョン 2030」を策定し、より良い未来を創造する「地域の知の府」「知識創造の場」として、地域に頼られ、尊敬され、愛される大学を目指すこととしている。当該ビジョンを踏まえ、第4期中期目標・中期計画においては、「地域連携プラットフォームを活用した地域社会、多様なステークホルダーとの連携強化」、「東日本における中核的拠点である産業動物関連教育（獣医・畜産学）及び東日本大震災の地域課題に対応した防災・まちづくり分野ならびに水産分野、次世代農業分野など、地域の持続的発展に資する教育プログラムへの改編・整備」を実施することとしている。

岩手大学農学部では、これまで農学を中心に6学科体制により教育・研究を行い、地域に根差した実学教育を推進することで、東北地域の農業振興及び技術開発、農業指導者、教育者等を育成してきた。一方、獣医学の教育理念は国際通用性及び専門深化が基本となっており、全国一律で獣医学教育の質を担保する必要性から全国獣医系大学関係者協議会及び文部科学省の支援により2011年に「獣医学モデル・コア・カリキュラム」が制定された。また、世界的には、国際通用性、かつ高度な専門性を有する獣医師の育成が求められており、その教育体制の構築が求められている。すなわち、世界の獣医行政・獣医学教育を司る国際獣疫事務局（OIE；通称WOAH）は、2010年に国際的通用性を備えた人材を養成すること、世界の獣医系大学の教育の質を担保することを目的として「高品質な国の獣医サービスを提供するために必要な最低限の獣医学生が卒業時に身につけるべき資質（Day One Competency）」を策定し、日本を含む世界のOIE加盟国に提示した。このような世界的な獣医学教育を巡る情勢の中、岩手大学は日本有数の畜産県にあり、これまで充実した畜産教育、産業動物獣医学教育及び東日本地域における産業動物獣医師の卒後教育を担ってきた豊富な実績を有している。今後、国際通用性を有する獣医学教育の実現に向け、獣医学領域におけるガバナンス体制の強化、そして地域の要請に応える獣医学教育を実現するため、岩手大学農学部共同獣医学科を改組し獣医学部を設置する。

具体的には、獣医学教育体制の充実として、東京農工大学と連動した共通教育科目の削減（44単位から30単位に削減）することで専門科目の前倒し開講（1年前期から専門科目6科目9単位を開講）が可能となるほか、新たな専門アドバンス科目（産業動物を中心とする臨床獣医学科目、衛生管理を中心とする応用獣医学科目、研究を中心とする基礎獣医学科目）の開設を行う。なお、獣医学

部附属産業動物臨床・疾病制御教育研究センター（FCD）を中心に充実した参加型臨床実習（産業動物）を展開するとともに専門アドバンス科目でも臨床教育を行うことが可能となる。

また、地域の要請である産業動物獣医師の安定的育成・輩出に向け、基礎ゼミナールにおける産業動物観察実習、産業動物解剖学等により低学年次からの産業動物獣医師への意識付け、農学部動物科学コースと連携した畜産学関連講義を開講することで産業動物臨床への意識付けを行う。

さらには、学部化に伴うガバナンス強化により海外獣医系大学との学部間連携が可能となり、獣医学部の意思による連携深化が容易となる。このことは本学獣医学研究のグローバル化、国際通用性ある教育の実現に大いに資するものである。

これら教育体制の充実により学生の学修意欲、研究意欲並びに大学院進学意欲の向上を実現する。

以上の取り組みにより地域が抱える社会的要求に応えることができる高度専門職業人の育成並びに次代の産業動物獣医学教育を支える産業動物臨床分野の研究者養成を実現する。

なお、岩手大学獣医学部では以下の3つのポリシーを掲げ、国際通用性ある高度な専門性を有する獣医師を育成する。

※ 別紙1：岩手大学獣医学部設置の概要

(1) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（獣医学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

- 1) 獣医師としての責務を遂行するために、動物の健康・福祉、公衆衛生などに関する高度な専門知識を修得している。

（思考・判断）

- 2) 獣医学領域に関わる課題について、生命科学を基礎とした知識と技能を用いて論理的に判断できる。

（関心・意欲）

- 3) 獣医師として国内での責務を果たすのみならず、国際的視野を有している。
- 4) 地球規模での感染症対策や畜産物の安全確保等に対して貢献出来る知識を修得しており、意欲も有している。

（態度）

- 5) 幅広い専門知識や技能に基づいた説明ができる。

6) 倫理性も備えた行動規範を身につけており、適切なコミュニケーションができる。

(技能・表現)

7) 高度な専門知識に基づいて修得した獣医学領域で必要な技能を実践できる。

8) 論理性と倫理性を兼ね備えた行動規範を身につけている。

(2) 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに基づいた教育課程を実施することに加え、人類と動物の健康と福祉に貢献するという理念に基づき、高度獣医療の提供、人類の健康と食の安全、ならびに生命科学研究の発展に活躍できる国際的な視野を持つ人材を育成することを目的として、以下のカリキュラムを編成している。

(知識・理解)

1) 獣医師としての責務を遂行するために、動物の健康・福祉、公衆衛生などに関する高度な専門知識を修得するため、専門科目の履修を必修としている。

(思考・判断)

2) 獣医学領域に関わる課題について、生命科学を基礎とした知識と技能を用いて論理的に判断できるように、共通科目の履修を必修としている。

(関心・意欲)

3) 獣医師として国内での責務を果たすのみならず、国際的視野を有することができるよう、海外研修などを配置している。

4) 地球規模での感染症対策や畜産物の安全確保等に対して貢献出来る知識を修得するために、人獣共通感染症や食品衛生関連の科目を配置している。

(態度)

5) 幅広い専門知識や技能を身につけるため、各種実習、演習を配置している。

6) 倫理性も備えた行動規範を身につけており、適切なコミュニケーションができるようになるため、共用試験の受験を必修としている。

(技能・表現)

7) 高度な専門知識に基づいて修得した獣医学領域で必要な技能を実践できるように、総合臨床実習や公衆衛生実践実習などの現場での実習を配置している。

8) 論理性と倫理性を兼ね備えた行動規範を身につけられるように、獣医倫

理や獣医学概論の様な導入科目を配置している。

(3) 入学者に求める資質 (求める学生像、アドミッション・ポリシー)

獣医師は人類と動物の健康と福祉に貢献するという理念に基づき、高度獣医療の提供、人類の健康と食の安全、生命科学研究の発展に活躍できる国際的な視野を持つ人材を育成する。

(知識・技能・理解・思考力・判断力・表現力)

- 1) 獣医学を学ぶに相応しい基礎学力を有する人。
- 2) 動物の生命現象と病態に関する課題を探究し、グローバルな視野から論理的に解決する思考力を有する人。

(関心・意欲・態度・主体性・協同性)

- 3) 動物の生命現象と病態に関心を持ち、それを継続して探究しようとする意欲のある人。
- 4) 自己を啓発し実行力に優れ、獣医学の発展ならびに社会に貢献しようとする意欲のある人。
- 5) 獣医師として、国際的な交流・協力を推進し、世界に学び世界に貢献しようとする意欲のある人。

国際通用性かつ高度な専門性を有する獣医師の育成

ディプロマ・ポリシー

- ・ 獣医師としての責務を遂行するために、動物の健康・福祉、公衆衛生などに関する高度な専門知識を修得している。
- ・ 高度な専門知識に基づいて修得した獣医学領域に必要な技能を実践できる。
- ・ 論理性と倫理性を兼ね備えた行動規範を身につけている。
- ・ 獣医師として国内での責務を果たすのみならず、国際的視野を有している。
- ・ 地球規模での感染症対策や畜産物の安全確保等に対して貢献出来る知識を修得しており、意欲も有している。
- ・ 幅広い専門知識や技能に基づいた説明ができる。
- ・ 倫理性も備えた行動規範を身につけており、適切なコミュニケーションができる。
- ・ 獣医学領域に関わる課題について、生命科学を基礎とした知識と技能を用いて論理的に判断できる。

カリキュラム・ポリシー

- ・ 獣医師としての責務を遂行するために、動物の健康・福祉、公衆衛生などに関する高度な専門知識を修得するため、専門科目の履修を必修としている。
- ・ **6年間を通じての全ての専門科目**
- ・ 高度な専門知識に基づいて修得した獣医学領域に必要な技能を実践できるように、総合臨床実習や公衆衛生実践実習などの現場での実習を配置している。
- ・ **総合参加型臨床実習Ⅰ～Ⅵ (5年次)、行政体験実習 (2～4年次)**
- ・ 倫理性も備えた行動規範を身につけており、適切なコミュニケーションができるようになるため、共用試験の受験を必修としている。
- ・ **共用試験vetCBT、vetOSCE (4年次終了時)**
- ・ 獣医師として国内での責務を果たすのみならず、国際的視野を有することができるよう、海外研修などを配置している。
- ・ **海外実習 (3～5年次)**
- ・ 地球規模での感染症対策や畜産物の安全確保等に対して貢献出来る知識を修得するために、人獣共通感染症や食品衛生関連の科目を配置している。
- ・ **人獣共通感染症学、食品衛生学、環境衛生学等 (3年次)**
- ・ 幅広い専門知識や技能を身につけるため、各種実習、演習を配置している。
- ・ **基礎系(解剖、生理等 1～2年次)、応用・病態系(微生物学、病理学等 2～3年次)、臨床系(内科、外科等 3～4年次)の各実習、獣医学演習 (4～5年次)**
- ・ 論理性と倫理性を兼ね備えた行動規範を身につけられるように、獣医倫理や獣医学概論の様な導入科目を配置している。
- ・ **獣医倫理、獣医学概論 (1年次)**
- ・ 獣医学領域に関わる課題について、生命科学を基礎とした知識と技能を用いて論理的に判断できるように、共通科目の履修を必修としている。
- ・ **大学導入基礎科目、外国語科目、人文社会科目、理数系基礎科目等 (1～2年次)**

アドミッション・ポリシー

- ・ 獣医学を学ぶに相応しい基礎学力を有する人
- ・ 動物の生命現象と病態に関する課題を探究し、グローバルな視野から論理的に解決する思考力を有する人
- ・ 動物の生命現象と病態に関心を持ち、それを継続して探究しようとする意欲のある人
- ・ 自己を啓発し実行力に優れ、獣医学の発展ならびに社会に貢献しようとする意欲のある人
- ・ 獣医師として、国際的な交流・協力を推進し、世界に学び世界に貢献しようとする意欲のある人

1-2 岩手大学獣医学部・東京農工大学農学部共同獣医学科の設置の趣旨及び必要性

我が国の獣医学教育を取り巻く環境は、近年の食の安全確保、人獣共通感染症への対応、獣医療ニーズの多様化・高度化などへの対応がせまられている。世界の獣医学教育の潮流としては、欧州連合において獣医学教育の大幅な改革により、共通基準と評価のシステムが構築されている。国際獣疫事務局(OIE; 通称 WOAH) は、より専門性の備わった獣医師が生み出せるように獣医学教育を変えていくことを目的として、2010年に「高品質な国の獣医サービスを提供するために必要な最低限の獣医学科卒業生が身につけるべき資質(Day One Competency)」を策定し、防疫需要等の増大に対応しうる国際的通用性を備えた人材の養成を求めている。

また、平成23年3月には文部科学省の「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」において獣医学教育の改善・充実方策についての意見のとりまとめが示され、その中で高度な実践力を備えた獣医師の養成が、獣医学教育の喫緊の課題・責務であることを前提としたうえで、新たな感染症等の社会ニーズに対応した人材の高度化、獣医師養成の国際通用性確保、我が国の獣医師の現状を踏まえた対応(職域偏在の解決に向けた産業動物分野の魅力向上、高度な実践力を有する獣医師養成)、我が国の大学教育改革(高等教育の質保証)を踏まえた教育内容・方法の改善促進等を課題として挙げており、それらに対する基本的方向性とその具体的方策として、モデル・コア・カリキュラムの策定、分野別第三者評価の導入、共同学科の設置等による大学間連携の促進による教育研究体制の充実等を挙げている。

一方、獣医師に対する社会的需給については、「獣医師の需給に関する検討会報告書(農林水産省、平成19年5月)」において、伴侶動物の診療獣医師数は、ほぼ充足もしくはやや過剰とされているものの、2010年におけるイヌの飼育頭数は1,277万頭(推定値)、ネコの飼育頭数は1,088万頭(推定値)を数え、年間診療回数は平均でイヌ3.3回、ネコ2.0回となっており、獣医療技術の高まりに伴うイヌ、ネコの高齢化、コンパニオンアニマルとしてのイヌ、ネコに関する飼育者の高まりなど、基幹病院としての大学附属動物病院の機能付与などによる、高度な先端的医療技術開発のニーズが高まってきている。また、産業動物診療の獣医師数は約600名程度不足し、家畜衛生や公衆衛生分野における公務員獣医師数は、その定員数に変化はないとしても、退職者数をカバーできない新規就業者数で推移し、慢性的な要員不足に陥るとされており、獣医師の職域偏在化の是正が求められている。さらに、口蹄疫対策検証委員会報告書(農林水産省、平成22年11月24日)においては、産業動物に

対する獣医学教育でその意義や魅力についての教育機会が少ないこと、大学での実習や卒業研修が不十分であることなどの教育システムの不備から獣医師の職域偏在化が進んでおり、獣医学系大学における産業動物に関する実習の強化、研修の強化などにより産業動物に関する獣医療体制を実効あるものとするように強化推進すべきとの指摘がなされている。

具体的には次のような点が既存の獣医学課程又は獣医学科における獣医学教育の課題として挙げられている。

- ・ 獣医師の職域や社会的役割、関連法規、獣医倫理等を扱う導入教育のあり方
- ・ 学生への動機付けや獣医学教育に対する理念醸成のあり方
- ・ 実践的な教育として、応用分野や臨床分野に係る教育内容の高度化
- ・ 基礎・応用・臨床の全分野における実習内容を強化し、理論から実践へ繋げる教育体系の充実
- ・ 応用・臨床分野の講義科目や実習科目で取り扱う内容の高度化
- ・ 実習段階における施設整備が不十分であり、実習の機会が確保されていない。
- ・ 近年の学問の進展や社会ニーズの高まりから新たに必要性の高まった分野は、専門性のある教員の不足や共通的なテキスト等の未整備等の理由から、教育内容・教育体制がともに不十分であるなどの獣医学教育の高度専門職業人養成に向けて克服すべき問題が多数存在している。

こうした現状分析や内外の動向を踏まえ、獣医学教育の諸課題等を解決するために、東日本における産業動物獣医療の教育に実績を有する岩手大学と首都圏を中心とした伴侶動物獣医療の教育の実績を有する東京農工大学が協力して、一大学では成しえることができない臨床分野や公衆衛生分野の強化をはじめとする複雑化・高度化する獣医療に対応した実践的な獣医学教育と、獣医学教育モデル・コア・カリキュラムを基盤とした獣医学教育を実施し、高度な知識と技術を併せ持った、国際的通用性のある獣医師を養成するため、平成24年度から岩手大学・東京農工大学農学部共同獣医学科を設置し、これまで多くの獣医師を育成・輩出してきた。

今般、岩手大学では獣医学部を設置し、獣医学教育に関するガバナンスを強化するとともに産業動物獣医学教育体制を強化するが、岩手大学と東京農工大学の緊密な教育連携のもと、スケールメリットを生かし、優れた人材を養成する教員配置体制を構築するとともに、国際水準にある獣医学教育を行うためには引き続き両大学の特色ある教育資源を効果的に活用し、国際的水準を満たす獣医学教育体系を構築することが重要であり、岩手大学獣医学部と東京農工大学農学部の間でこれまで同様に共同獣医学科を設置することが

必要である。

なお、岩手大学獣医学部共同獣医学科、東京農工大学農学部共同獣医学科ではそれぞれ以下のポリシーを掲げ、国際通用性ある高度な専門性を有する獣医師を育成する。

岩手大学獣医学部共同獣医学科

(1) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（獣医学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

1) 獣医師としての責務を遂行するために、動物の健康・福祉、公衆衛生などに関する高度な専門知識を修得している。

（思考・判断）

2) 獣医学領域に関わる課題について、生命科学を基礎とした知識と技能を用いて論理的に判断できる。

（関心・意欲）

3) 獣医師として国内での責務を果たすのみならず、国際的視野を有している。

4) 地球規模での感染症対策や畜産物の安全確保等に対して貢献出来る知識を修得しており、意欲も有している。

（態度）

5) 幅広い専門知識や技能に基づいた説明ができる。

6) 倫理性も備えた行動規範を身につけており、適切なコミュニケーションができる。

（技能・表現）

7) 高度な専門知識に基づいて修得した獣医学領域で必要な技能を実践できる。

8) 論理性と倫理性を兼ね備えた行動規範を身につけている。

(2) 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに基づいた教育課程を実施することに加え、人類と動物の健康と福祉に貢献するという理念に基づき、高度獣医療の提供、人類の健康と食の安全、ならびに生命科学研究の発展に活躍できる国際的な視野を持つ人材を育成することを目的として、以下のカリキュラムを編成している。

(知識・理解)

- 1) 獣医師としての責務を遂行するために、動物の健康・福祉、公衆衛生などに関する高度な専門知識を修得するため、専門科目の履修を必修としている。

(思考・判断)

- 2) 獣医学領域に関わる課題について、生命科学を基礎とした知識と技能を用いて論理的に判断できるように、共通科目の履修を必修としている。

(関心・意欲)

- 3) 獣医師として国内での責務を果たすのみならず、国際的視野を有することができるよう、海外研修などを配置している。
- 4) 地球規模での感染症対策や畜産物の安全確保等に対して貢献出来る知識を修得するために、人獣共通感染症や食品衛生関連の科目を配置している。

(態度)

- 5) 幅広い専門知識や技能を身につけるため、各種実習、演習を配置している。
- 6) 倫理性も備えた行動規範を身につけており、適切なコミュニケーションができるようになるため、共用試験の受験を必修としている。

(技能・表現)

- 7) 高度な専門知識に基づいて修得した獣医学領域で必要な技能を実践できるように、総合臨床実習や公衆衛生実践実習などの現場での実習を配置している。
- 8) 論理性と倫理性を兼ね備えた行動規範を身につけられるように、獣医倫理や獣医学概論の様な導入科目を配置している。

(3) 入学者に求める資質 (求める学生像、アドミッション・ポリシー)

獣医師は人類と動物の健康と福祉に貢献するという理念に基づき、高度獣医療の提供、人類の健康と食の安全、生命科学研究の発展に活躍できる国際的な視野を持つ人材を育成する。

(知識・技能・理解・思考力・判断力・表現力)

- 1) 獣医学を学ぶに相応しい基礎学力を有する人。
- 2) 動物の生命現象と病態に関する課題を探究し、グローバルな視野から論理的に解決する思考力を有する人。

(関心・意欲・態度・主体性・協同性)

- 3) 動物の生命現象と病態に関心を持ち、それを継続して探求しようとする意欲のある人。
- 4) 自己を啓発し実行力に優れ、獣医学の発展ならびに社会に貢献しようとする意欲のある人。
- 5) 獣医師として、国際的な交流・協力を推進し、世界に学び世界に貢献しようとする意欲のある人。

東京農工大学農学部共同獣医学科

(1) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

獣医師は人類と動物の健康と福祉に貢献するという理念に基づき、本共同獣医学科は、高度獣医療の提供、人類の健康と食の安全、生命科学研究の発展に活躍できる国際的な視野を持つ人材を育成することを目標としており、以下の能力を身につけ、目標とする学修成果を上げた者を学士授与に相当しい者として判定する。

- A) 多元的な視野を持つ獣医師となるべく、幅広い教養基礎学力を養い、論理性や倫理性を兼ね備えた高い行動規範を持つこと。
- B) 獣医師に必要な高度な専門的知識を持つとともに、それらを様々な分野に応用可能な思考力と洞察力を持つこと。
- C) 獣医学を基礎とした研究手法や解析方法を身につけ、高い技術と実行力に裏付けされた問題解決能力を持つこと。
- D) 世界レベルの問題に対処するため、多様な環境に対応できる適応力と対人力、国内外で活躍できるコミュニケーション力を醸成すること。

(2) 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

カリキュラムのベースは獣医師国家試験受験資格に必要な高度な知識と専門技術を習得することであるが、世界的な諸問題解決に貢献できる教養基礎学力、多元的視野、論理的思考力、対人力、コミュニケーション力を持つ獣医師を養成するため、共通教育科目から専門教育科目への移行がスムーズに行えるように体系的且つ実践的な専門教育科目が配置されている。

- A) 幅広い教養基礎学力を養い、論理性や倫理性を兼ね備えた高い行動規範を持つため、1～2年次において外国語や人文社会学、理数系基礎科目などからなる共通教育科目に加え、獣医学の基礎科目として獣医学概論、獣医倫理、発生学、獣医遺伝育種学、獣医基礎生化学、および獣医事法規を開講する。

- B) 獣医師に必要な高度な専門的知識を持つとともに、それらを様々な分野に応用可能な思考力と洞察力を持つため、2～5年次を通じて多岐にわたる専門教育の講義を基礎・病態から臨床・応用へと体系的に開講する。
- C) 獣医学を基礎とした研究手法や解析方法を身につけ、高い技術と実行力に裏付けされた問題解決能力を持つため、2～5年次を通じて獣医学実習を基礎・病態から臨床・応用へと体系的に開講する。
- D) 多様な環境に対応できる適応力と対人力、国内外で活躍できるコミュニケーション力を醸成するため、5～6年次から小動物臨床や大動物臨床に参加する実習に加え、各人は研究室に所属し卒業研究論文を作成することで、獣医学に関する課題に関して自ら解決できる能力を養う。また、インターンシップや海外実習、卒業研究の一部として、国内外の研究教育機関で研究活動に参加できる機会を広く提供する。

(3) 入学者に求める資質（求める学生像、アドミッション・ポリシー）

獣医師は、人類と動物の健康と福祉に貢献するという理念に基づき、本共同獣医学科は、高度獣医療の提供、人類の健康と食の安全、生命科学研究の発展に活躍できる国際的な視野を持つ人材を養成することを設置基盤としている。そのために、本共同獣医学科では、次の能力・資質を備えた入学者を国内外から求める。

- 1) 獣医師としての目標を持ち、獣医学の発展に貢献しようとする意欲を持つ者。
- 2) 自然や生命現象に関心を持ち、それを探究しようとする意欲を持つ者。
- 3) 獣医師として、国際的な交流・協力を推進し、世界に学び世界に貢献しようとする意欲を持つ者。
- 4) 常に自己を啓発し、実行力に優れ、社会で貢献しようとする意欲を持つ者。
- 5) 課題を探究し、問題を解決する意欲を持つ者。

2 学部・学科の特色

岩手大学は、日本有数の畜産物生産基地である東北に位置し、高度産業動物獣医療の実践という特色を持つ。一方、東京農工大学は首都圏に位置し、伴侶動物の高度獣医療の実践という特色を持つ。このことは附属動物病院における動物の診療件数に明確に表されており、平成21年度の診療頭数は、岩手大学にお

いては伴侶動物 2,400 頭、産業動物 1,020 頭であるのに対し、東京農工大学では伴侶動物 6,900 頭、産業動物は 15 頭となっている。

岩手大学は、明治 35 年（1902）に盛岡高等農林学校が我が国初の高等農林専門学校として設置されて以来、現在まで不断なく獣医学教育を続けてきた。盛岡高等農林学校設立当初は、農耕用として飼育されていた馬・牛や軍馬を中心とした獣医学教育が実践されていた。特に岩手県中央部から青森県東部にわたる南部地域は古くから日本有数の馬産地であり、明治 30 年代には 10 万頭以上の馬を飼養しており、獣医学科は東北地域の馬獣医療を支える重要な役割を担ってきた。

平成 16 年の国立大学の法人化以降も設立からの理念・役割を継承し、「健康で高品位な家畜の生産と食の安全・安心に関する学際的・横断的科学的を希求し、その成果を東北・岩手の地から世界に発信するための拠点施設として、平成 18 年度に農学部附属動物医学食品安全教育研究センター（FAMS）を設置し、農場 HACCP（hazard analysis critical control point）（危害分析重要管理点）を基盤とする動物性食品の安全性確保に対する 3 つの使命、①動物性食品に関する学際的・横断的な研究拠点形成、②動物・食品分野横断的な動物性食品に関する卒業教育・学部教育の提供、③地域密着型・問題解決型の動物性食品に関する研究を推進し、他の獣医系大学にはない食品安全管理科学の講義・実習を開講するとともに、社会人に対する卒業教育として家畜衛生及び家畜診療、食品安全に関する研修会を定期的に開催している。さらに平成 20 年度からは、社団法人中央畜産会からの要請を受けて、夏季休業中に他大学の獣医学生に対して産業動物獣医師就業研修を 2 週間実施しており、産業動物臨床及び家畜衛生関連の実習を通して、産業動物獣医分野への就業意識の啓発を行い、近年の社会的ニーズである産業動物臨床及び家畜衛生獣医師不足に応える活動を推進している。

平成 20 年に文部科学省に設置された「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」が、共同教育など教育研究体制の充実、獣医学モデル・コア・カリキュラムの策定、分野別第三者評価の実施、共用試験の実施、附属動物病院・実習環境の改善並びにその実施に係るロードマップなどを提示した。それに伴い、東日本地域においては産業動物獣医学教育に強みを有する岩手大学と伴侶動物獣医学教育に強みを有する東京農工大学が連携し、平成 24 年 4 月に東京農工大学とともに共同獣医学科を設置した。令和 4 年には、コアカリキュラムで導入された「参加型臨床実習」について、首都圏に位置する獣医学科を有する多くの大学において困難とされる産業動物に係る参加型臨床実習を支援するため、岩手大学では文部科学省の支援の下、産業動物参加型臨床実習の拠点になるべく農学部附属産業動物臨床・疾病制御教育研究センター（FCD）を設置した。

岩手大学はこれまで 120 年にわたり産業動物獣医学教育に携わり、東北地域

が抱える課題等に対応するとともに、東北地域の獣医療を支える多くの人材を輩出してきた。獣医学部においてもこれまでの実績を継続するとともに、東日本地域の獣医系大学所属獣医学生においても産業動物臨床獣医師、家畜衛生・公衆衛生を担保する公務員獣医師等の育成に係る教育研究を担い、日本の産業動物獣医師等の育成に貢献する。

一方、東京農工大学は東京都に位置し、首都圏を中心とする伴侶動物獣医療の実践的な教育を行い、国際的水準を満たす獣医学教育を実践する上で求められる伴侶動物の高度先端獣医療施設及び救急獣医療施設として「農学部附属動物医療センター」および「小金井動物救急医療センター」を設け、先進獣医療機器を備えて、動物に対して最善の治療を提供するとともに、学部学生、大学院生並びに研修医の臨床教育、近隣/近県の伴侶動物臨床獣医師のための卒後教育の場として大きな役割を果たしている。本共同獣医学科は、過去5年間における178名の卒業生のうち、70名(39%)の小動物診療(動物病院)に関わる獣医師を輩出した実績を有している。また、製薬等の企業に就職する学生が、岩手大学に比較して多い特徴も併せ持っている。(別紙2：卒業生の就職先動向)

獣医学教育での講義科目や実効性のある実習を通じて学生教育の質の向上を図ることは、内外の情勢から判断して必然となってきたが、獣医学生が行う診療行為については、「獣医学生の実習における獣医師法第17条の適用について」(農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課長通知、平成22年6月30日付け22消安第1514号)によって、獣医学生が臨床実習において、他者が所有する飼育動物に対して行う診療行為が、獣医学教育の一環として新規獣医師の資質向上に資するものであり、指導教員の指導・監督のもとに行う場合には、少なくとも獣医師法上の違法性はないとの通達が行われた。この通達により、獣医学教育における実習は、従来の見学型実習から参加型実習の実践へと大きく展開したと言える。このことから獣医学教育における臨床実習は、即戦力となる獣医師養成を可能とするために、従来の見学型から参加型実習が必須となるべき大きな転換期をむかえている。その参加型実習を実施するために、産業動物高度獣医療及び先端的伴侶動物臨床実習に関わる設備、備品類などを整備する必要が生じるが、両大学がそれぞれ役割分担して整備することにより、学生教育の質の向上に寄与すると同時に、両大学がおかれている地域特性に応えることが可能となる。

また、「食の安全確保」は世界的に重要な問題となっており、動物性食品に由来する食中毒・感染症を制御するためには、獣医学の知識と技術を活用することが必要とされている。動物性食品の流通はグローバル化しており、その輸出入に関しては安全性を担保する国際基準を満たす獣医師が必要であるとOIEが指摘している。また、口蹄疫をはじめとする家畜伝染性疾患は、家畜の健康のみなら

ず、社会的基盤を揺るがす事態を引き起こしている。

このような事態を打破するために、岩手大学においては、平成18年度に設置した「農学部附属動物医学食品安全教育研究センター」(FAMS)及びセンター内に設置される4つの部門(①研究プロジェクトと教育プログラムの企画調整を担う「企画調整部門」、②家畜及び畜産物の生産、加工、流通段階における安全管理に関する教育研究の推進を担う「食の安全部門」③家畜の生産、疾病診断、治療及び予防に関する教育研究の推進を担う「動物生産部門」④畜産物の生産、加工及び流通段階における放射性物質汚染管理に関する教育研究の推進を担う「環境放射線衛生学部門」)が中心となり、動物生命科学に関する基礎的・応用的教育研究の拠点として、人類と動物の間に生ずる課題を解決するとともに、健康な家畜の生産と食の安全・安心に関する教育及び研究を推進している。

一方、東京農工大学においても「農学部附属国際家畜感染症防疫研究教育センター」を平成23年4月に設立し、令和3年には同センターの名称を「農学部附属感染症未来疫学研究センター」に改組した。当該センターでは、未知のウイルスを発見することを目的とする「未来感染症研究ユニット」、未来に出現する感染症を予測して先回り防疫を目的とする「危機対策ユニット」、これらの研究をマネジメントする「マネジメントユニット」の3ユニットを設置し、共同獣医学科各研究室との密接な連携の下、国内外における重要伝染病や一般感染症の防疫に関する研究・教育を遂行している。なお、センターには、専任教員4名とコーディネーターとして1名の専門職員を配置している。4名の専任教員は、共同獣医学科の兼任教員として、微生物学総論・同実習、動物感染症学、疫学、動物衛生学・同実習、食品衛生学・同実習、公衆衛生学総論・同実習、国際感染症制御学を分担する。

東京農工大学農学部附属感染症未来疫学研究センター及び岩手大学獣医学科附属動物医学食品安全教育研究センター並びに両大学の公衆衛生と伝染病に関わる教育資源を結集することにより、フードチェーンシステムに基づく食品の安全確保、大規模な家畜伝染病発生時の防疫活動を実現するための、体系的かつ実践的な獣医公衆衛生学教育・実習が構築できる。

本共同獣医学科は、今後供給が不足する産業動物に関わる家畜衛生や公衆衛生分野における獣医師養成の強化と、伴侶動物等に関わる高度獣医療技術の習得を強化するため、東日本に位置する岩手大学と東京農工大学がこれまでの実績を活かし、東日本における獣医学教育の拠点として獣医師の養成に努める。また一方で、東日本における卒後教育の場として、「動物病院」、「動物医療センター」、「小金井動物救急医療センター」「動物医学食品安全教育研究センター」並びに「感染症未来疫学研究センター」の教員を活用した獣医師の技術力と獣医学教育における専門知識の高度化を図る。

3 学部・学科等の名称及び学位の名称

(1) 岩手大学獣医学部・東京農工大学農学部共同獣医学科

岩手大学獣医学部共同獣医学科

英文名 Cooperative Department of Veterinary Medicine, School of
Veterinary Medicine, Iwate University

東京農工大学農学部共同獣医学科

英文名 Cooperative Department of Veterinary Medicine, The Faculty
of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and
Technology

岩手大学及び東京農工大学は、各々現状分析と獣医師養成に係る内外の動向を踏まえ、獣医学教育の課題を解決するために、平成24年4月から大学の特色ある教育資源を効果的に活用した共同教育課程として岩手大学農学部・東京農工大学農学部共同獣医学科を編成し、国際的水準を満たす獣医学教育の充実を図る教育体系を構築している。今般、岩手大学において獣医学部を設置し獣医学教育を担うことに伴い、名称を岩手大学獣医学部・東京農工大学農学部共同獣医学科とする。併せて岩手大学獣医学部の英語名称は、国内外における通用性に留意して、“School of Veterinary Medicine”とする。

(2) 授与する学位の名称

学士（獣医学）

英文名 Bachelor of Veterinary Medicine

岩手大学農学部・東京農工大学農学部共同獣医学科として実施してきた6年間の獣医学に関する単位を修得した学生に授与してきたものと、岩手大学獣医学部・東京農工大学農学部共同獣医学科においても同一であることから、学士（獣医学）を授与する。英語名は Bachelor of Veterinary Medicine とする。なお、学位記は、両大学長の連名によるものとする。

(3) 学生定員

入学定員は1学年65名（岩手大学30名、東京農工大学35名）、収容定員は390名とする。

4 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 編成方針

本共同獣医学科では、「人類と動物の健康と福祉に貢献する」という理念を実現するため、教育及び到達目標が同一である、1) 共通教育科目、2) 専門教育科目、3) 専修コース並びに4) 卒後教育に体系化して教育課程を編成する。共通教育科目は、岩手大学教学マネジメントセンター並びに東京農工大学グローバル教育院が中心となって、全学的体制により実施する。専門教育科目は基盤獣医学科目、実証獣医学科目、選択科目、専修科目に分類する。基盤獣医学科目は、基礎獣医学科目群、病態獣医学科目群、応用獣医学科目群から、実証獣医学科目は小動物臨床獣医学科目群と大動物臨床獣医学科目群からそれぞれ構成される。これら専門教育科目の具体的な教育内容としては「獣医学モデル・コア・カリキュラム」に記載の内容を網羅し、それらを理解・修得させることを必要最低限としつつ、それに加えて各担当教員の専門分野を生かした講義・実習を主要授業科目として配置している。なお、東京農工大学との共同教育科目として岩手大学開講分として必修 22 科目 39 単位、選択 3 科目 5 単位、東京農工大学開講分として必修 26 科目 44 単位、選択 3 科目 5 単位を設定する。共同教育科目の実施にあたっては、開設大学がビデオ講義システムにより配信し、他方の大学がリアルタイムにこれを受信し、受信大学からの質疑等を含め、リアルタイムの双方向講義として実施する。それ以外の必修 49 科目 71 単位、選択 2 科目 2 単位はそれぞれの大学で開講する通常科目とする。

本編成方針をもとに、

- 1) 共通教育科目では、獣医学の基盤となる高等動物の生命科学に関する知識とともに、人文社会科学の諸分野の課題について学ぶ。
- 2) 専門教育科目では、獣医師として必要な専門的知識を習得させるため、次の教育科目を修得する。
 - ① 基礎獣医学科目群では、獣医師の任務を遂行する上で必要な倫理性及び論理性を涵養し、獣医学の根源をなす生命の基本的な成り立ちを分子レベルから個体レベルに至るまで理解することを目的とする。
 - ② 病態獣医学科目群では、動物の病的な状態がどのようにして発生するかを理解し、生体の恒常性を乱す多様な外的要因（細菌、ウイルス、真菌、寄生虫等の病原体）などについて分子から個体に至る様々なレベルで理解する。
 - ③ 応用獣医学科目群では、動物とヒトの疾病予防の方策を理解し、

動物の疾病予防（動物衛生）及びヒトの健康（公衆衛生）を実現するための能力を身につける。

- ④ 小動物・大動物臨床獣医学科目群では、各種動物の疾病の的確な診断、治療及び予防を実現する能力を涵養すると同時に、実践的参加型臨床実習により、高度化する伴侶動物獣医療と産業動物獣医療に必要な知識・技術を身につける。

これらは獣医学モデル・コア・カリキュラムに準拠した編成とするとともに、特に家畜衛生・公衆衛生と臨床獣医学教育科目を充実する。家畜衛生・公衆衛生学教育においては獣医公衆衛生学に含まれる食品安全管理学や新たに家畜衛生学である国際感染症制御学を開講することにより、食の安全と国際的に重要な家畜伝染病の制御法に関する知識の習得と深化が図られる。臨床獣医学教育においては小動物及び大動物臨床の専任教員を配置し、地域との連携のもとに実践的参加型臨床教育6単位を展開する。

- 3) 専修コースにおいては、卒業後の進路希望に応じて基礎、病態、応用、臨床分野の専門的知識と技術力を高めるアドバンス科目を設定する。
- 4) 卒後教育においては、動物病院、動物医療センター、小金井動物救急医療センターにおける研修医制度並びに動物医学食品安全教育研究センター(FAMS)、産業動物臨床・疾病制御教育研究センター(FCD)、感染症未来疫学研究センターといった附属施設を有効に活用した研修制度を有機的に展開する。

開設科目については、必修、選択とし、卒業に必要な取得単位数は岩手大学、東京農工大学ともに同じとする。

(2) カリキュラム

カリキュラム・ポリシー（CP）に基づき、次のように編成する

1) 共通教育科目

（岩手大学：必修14単位、選択16単位、CP項目番号2）

（東京農工大学：必修14単位、選択16単位、CP項目A）

獣医師には「地球上全ての動物の健康と繁栄に責任を負う」自然科学としての獣医学を背景とし、論理性・倫理性を兼ね備えた高い行動規範が求められる。共通教育科目は、その基盤となる基礎的知識の習得を求め、多様な領域に対する学問的関心を喚起することで幅広く深い総合的

な判断力を培い、獣医師として豊かな人間性を涵養することが目的である。共同獣医学科における共通教育科目は、「大学教育導入科目群」、「スポーツ健康科目群」、「外国語科目群」、「人文社会科学科目群」、「理数系基盤科目群」及び「配置大学特色科目群」によって構成され、獣医学を学ぶに必要な基礎的知識を習得させるものであり、それぞれの大学で開講する。

①大学教育導入科目群（必修2単位）

a. 基礎ゼミナール（1年次）

基礎ゼミナールでは、大学で学ぶ関連学問領域に関する講義並びに実習を通して広い知識を身に付けるとともに、その活動を通して学業活動に不可欠な協調性や社会性、創造性や問題解決力を身に付する。

②スポーツ健康科目群（必修2単位）

a. スポーツ健康・基盤（1年次）

スポーツの楽しさを享受することで、スポーツが創り出す同じ時間・空間を他人と共有し、生涯スポーツ社会の実現に対応できる実践力を育てる。

b. スポーツ健康・発展（1年次）

スポーツの楽しさを享受することで、スポーツが創り出す同じ時間・空間を他人と共有し、生涯スポーツ社会の実現に対応できる実践力を育てる。

③外国語科目群（必修6単位）

a. 基礎英語（1、2年次）

英語は、獣医学領域で国際的に最も広く用いられている言語の一つである。基盤英語では、ライティング、リーディング、スピーチ及びコミュニケーションに関する基本的な知識を身に付けることで、将来、獣医学情報の収集や発信を行える国際的素養を身に付ける。

④人文社会科学科目群（選択8単位）

人文社会科学科目群では、現代の人間と社会の基本的問題及び人文社会科学の諸分野の中でも、動物と人類の健康と福祉に貢献する獣医師において極めて重要な内容として、社会並びに文化が人間にとってどのような意味や機能を持つのかについて考え、現代社会に生きる人間としての「ものの見方・考え方」を養う。

⑤配置大学特色科目群

(岩手大学：必修4単位、a～bから選択8単位)

(東京農工大学：必修4単位、選択8単位)

地球上全ての動物生命の健康と繁栄に責任を負い、論理性及び倫理性を兼ね備えた高い行動規範が求められる獣医師には、獣医学の基盤となる基礎知識並びに幅広く深い総合的な創造力、判断力、自己解決能力が求められる。配置大学特色科目群では、上記の共通教育の科目群とは別に学生諸君が主体的に履修科目を精選し履修することで、多様な領域に対する学問的関心を促し豊かな人間性を養う。

a. 理数系基礎科目群

動物と人類の健康と福祉、高度獣医療の提供、人の健康と食の安全並びに生命科学研究の発展に貢献する獣医学では、高等動物の生命科学に関する基礎学問の習得が不可欠である。理数系基盤科目群では、獣医学教育の基盤となる理数系基礎学問を履修し、生命現象の基本原則に関する知識を習得する。

b. 理数系アドバンス

「理数系アドバンス」では、「理数系基礎科目群」で学んだ高等動物の生命科学に関する基礎科目の他に、多彩な理数系関連科目を学生が自主的に精選し履修することで、動物と人類の健康と福祉、高度獣医療の提供、人の健康と食の安全並びに生命科学研究の発展に貢献するための深く幅広い教養知識と洞察力を育む。

2) 専門教育科目

(105科目、必修154単位、選択5単位、1～6年次開講)

(岩手大学：CP項目番号1、3～8)

(東京農工大学：CP項目A～D)

獣医師は、飼育動物に関する診療及び保健衛生の指導その他の獣医事を司ることによって、動物に関する保健衛生の向上及び畜産業の発展を図り、併せて公衆衛生の向上に寄与することが求められている。共同獣医学科においては、多様化する獣医師の職務を遂行する上で必要な知識・技能を習得させることに加え、専門分野・職域別に求められる実践的な知識・技能を養成し、日本及び世界における喫緊の共通課題を解決する能力を有し、社会に貢献する獣医師に必要な基盤を涵養する。

①基礎獣医学科目群(27科目、必修40単位、1～4年次開講)

導入教育は、獣医師の任務を遂行する上で必要な倫理性及び論理性を涵養し、さらに獣医事の法的基盤を理解することを目的とする。そ

の上で、基礎獣医学教育では獣医学の根源をなす、生命の基本的な成り立ち、正常な個体の構造と機能、恒常性維持機構を、分子レベルから個体レベルで理解することを目的とする。そのため、1年次には獣医学概論など13科目18単位を、2年次には内臓・脈管系解剖学など10科目17単位、3年次には家畜飼養学1科目2単位、4年次には獣医事法規など3科目3単位を配置した。

②病態獣医学科目群（15科目、必修25単位、1～3年次開講）

病態獣医学教育では、動物の病的な状態がどのようにして発生するかを理解することを目的とする。生体の恒常性を乱す多様な外的要因（細菌、ウイルス、真菌、寄生虫等の病原体）について、その性状と疾病への関わりについて幅広い知識を獲得し、また、遺伝病、代謝病、腫瘍などの疾病の発生機序について分子から個体にいたる様々なレベルで理解する。そのため、1年次には微生物学総論1科目2単位、2年次には動物病理学総論など7科目13単位、3年次には動物病理学各論など7科目10単位を配置した。

③応用獣医学科目群（14科目、必修21単位、2～4年次開講）

応用獣医学教育では、動物とヒトの疾病予防の方策を理解することを目的とする。動物とヒトの両者に疾病を引き起こす物理学的、化学的、生物学的危害要因について理解を深め、これらを制御する方策を学ぶことにより、動物の疾病予防（動物衛生）及びヒトの疾病予防（公衆衛生）を実現するための能力を身につける。そのため、2年次には公衆衛生学総論1科目1単位を、3年次には公衆衛生学総論、食品衛生学など12科目19単位、2～4年次に行政体験実習の1科目1単位を配置した。

④小動物臨床獣医学科目群（27科目、34単位、3～5年次開講）

臨床獣医学教育では、各種小動物の疾病についての的確な診断、治療及び予防を実現する能力を涵養する。実践的参加型臨床実習により、高度化する小動物獣医療に必要な知識・技術を身につける。そのため、3年次には内科学総論など6科目8単位、4年次には内分泌病・皮膚病学など17科目22単位、5年次には総合参加型臨床実習Ⅰなど4科目4単位を配置した。

⑤大動物臨床獣医学科目群（11科目、16単位、4～5年次開講）

臨床獣医学教育では、各種大動物の疾病についての的確な診断、治療及び予防を実現する能力を涵養する。実践的参加型臨床実習により、畜産振興及び食肉の安定供給、食の安全に寄与する大動物獣医療に必要な知識・技術を身につける。そのため、4年次には繁殖機能制御学な

ど9科目14単位、5年次には総合参加型臨床実習Ⅴなど2科目2単位を配置した。

なお、5年次における総合参加型臨床実習（Ⅰ～Ⅵ）は、4年次後期に実施される獣医学共用試験（vetCBT 及び vetOSCE）の合格者のみが履修できるものとする。

⑥選択科目（8科目、選択5単位以上、1～4年次開講）

獣医師としての幅広い専門性を醸成するとともに、獣医師としてのキャリアパス形成に関する意識を涵養するため、2年次には人と動物関係学など2科目4単位、3年次には動物介在学など2科目4単位、4年次には宿主寄生体関係特論など2科目2単位、1～4年次には学外実習（国内）および学外実習（国外）それぞれ1単位を配置した。

⑦専修科目（3科目、必修18単位、4～6年次開講）

高度な専門的知識と問題解決能力、技術の習得をするために獣医学演習4単位と卒業研究10単位並びに、アドバンス演習4単位を配置した。

以上のカリキュラムに加え、4年次後期からの高学年次には、卒業後の進路選択をする上で有用な基礎的知識と技術、問題解決能力のスキルアップを図るため、獣医学演習や卒業研究を行うにあたり、基盤獣医学科目を教授する教員が指導する先端生命科学（基礎、病態、応用分野）及び実証獣医学科目を教授する教員が指導する高度獣医療（小動物臨床、大動物臨床）の2専修分野を設置し、学生が両大学の専修分野を選択することを可能とするなど、一大学では成しえなかった獣医学教育をより高度化し、実践できる体制とする。

なお、総合参加型臨床実習を有効に実施するために、附属動物病院内に必要な備品などを整備し、疾病診断プロセス、臨床検査などの一連の診断・治療過程が体得できる体制を構築する。また、岩手県獣医師会や NOSAI 東北家畜臨床研修センターなどと連携し、実習プログラムに沿った臨床例の情報を集積することにより、近隣フィールドを活用した少人数の班編制における密度の高い実習により国際通用性に求められている Day One Competency に基づく実践的な臨床教育を行う。

※ 別紙3：共同獣医学科時間割表

(3) 単位の計算方法について

授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育

効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

・講義及び演習：15 時間又は 30 時間の授業をもって 1 単位とする。

(ただし、東京農工大学は講義 15 時間をもって 1 単位とし、演習は、15 時間又は 30 時間の授業をもって 1 単位とする。)

・実験、実習及び実技：30 時間又は 45 時間の授業をもって 1 単位とする。

卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらの必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、方法ごとの基準を考慮して定める時間の授業をもって 1 単位とする。

(4) 授業期間について

授業は、学期ごとに 15 週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合は、この限りではない。

5 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

本共同獣医学科における教育科目は、共同教育科目と、それぞれの大学で開講する通常科目で構成する。共同教育科目は①教員が他方の大学に移動して教授する、②学生が他方の大学に移動して講義、実習を受ける、③対面講義と遠隔講義の同時開講により教授するという 3 形態に分類される。通常科目は①両大学の教員が分担して教授する、②両大学の教員が別々に教授するという 2 形態に分類される。

共同教育科目において③対面講義と遠隔講義の同時開講により教授することについては、自大学で 15 回の講義を行う事を基本とし、講義する大学から他大学へ、リアルタイムの遠隔授業システムを用いて同時配信する。講義が一方通行となることを予防するとともに、学生の出欠管理を行うため、教員、学生間の双方向通信及び在席管理が可能なシステムを導入することで、教育効果を高める。なお、使用した教材は、学生側からダウンロード可能とする。

また、すべての履修科目は、学生が所属する本籍大学で受講することを原則とするが、他方の大学で開講されている科目を受講して単位を取得することも可能とする。

開講科目は必修、選択に分類し、卒業に必要なそれぞれの単位数を設定する。教授科目の配当年次として、1、2 年次は共通教育科目を重点的に履修する

が、1年次には獣医学に関する導入・基礎科目に加え病態科目の一部も教授する。2年次には基礎および病態科目、3年次には応用科目、4年次には臨床獣医学科目をそれぞれ重点的に教授し、5年次には参加型臨床実習Ⅰ～Ⅵを実施するほか、獣医学演習を重点的に教授する。6年次には卒業研究およびアドバンス演習を重点的に教授する。卒業研究は5年次後期4単位、6年次前後期で6単位（それぞれ1単位あたり週3時間）とする。

履修指導は学年ごとにクラス担任を設け、履修方法などについてきめ細かな指導ができる体制を構築する。また、年次の進行にあたっては進級の基準を設け、当該年次における必修単位の取得状況が基準を満たさない場合には、次の年次に進級させずに、そのままの年次に留め置くこととする。

卒業要件としては6年間で189単位とし、共通教育科目から必修14単位、選択16単位の計30単位を修得するとともに、専門科目から必修154単位、選択5単位の計159単位を修得する。

なお、留学生に対しては、岩手大学では学務部国際課及び国際教育センターが東京農工大学では府中地区学生支援室及びグローバル教育院（EAGLe）がそれぞれ中心となってきめ細かな履修指導、生活指導等を実施する。

※別紙4：カリキュラムマップ

※CAP制（履修登録24単位を上限）の考え方

1週間（月～金曜日）毎日6コマ、1コマ90分、1学期15週に基づき計算すると、大学における1学期の授業内学修時間は6コマ×5日×90分×15週＝40,500分となる。

さらに、月～金曜日に1日あたり180分、土・日曜日に計720分を自宅等での予習・復習に充てた場合、授業外学習時間は（（180分×5日）＋720分）×15週＝24,300分となる。

1単位の講義科目が2,700分（45時間）であることから、1学期の上限単位数は64,800分÷2,700分＝24となる。

以上により、1学期に履修できる上限単位数を原則として24単位に設定する。

ただし、集中講義の科目などは上限単位数に含めない。また、成績優秀者等については28単位まで申請することを認める。

6 実習の具体的計画

本共同獣医学科における臨床実習は、原則として岩手大学獣医学部附属動物病院及び産業動物臨床・疾病制御教育研究センター、岩手大学農学部附属フ

フィールドサイエンス教育研究センター、東京農工大学農学部附属動物医療センター及び小金井動物救急医療センターなどの学内教育研究施設で実施するが、以下の近隣の関係諸機関とも連携して実習の一部を実施する。これらの関係諸機関とは事前に契約を取り交わし、適切に実習を遂行する（別紙5：自治体等との協定書）。関係諸機関における実習に際しては担当教員が随行し、意欲、態度、知識・理解・技術等の到達度をもとに評価を行う。また、実習開始前には説明会を実施し、注意事項を学生に伝達する（別紙6：総合参加型臨床実習オリエンテーション資料）。

岩手大学では、独立行政法人家畜改良センター岩手牧場（岩手県盛岡市）における血液成分測定によるプロファイルテストなどの大動物臨床実習・基礎編、家畜改良事業団盛岡種雄牛センター（岩手県盛岡市）における種雄牛の管理と精液性状などの繁殖機能学実習、岩手県中央家畜保健衛生所（岩手県滝沢市）における病畜の病理検査法などの病理学実習、岩手県畜産研究所（岩手県滝沢市）における生殖器疾患などの臨床繁殖学実習、岩手県食肉衛生検査所（岩手県紫波町）における食肉処理の衛生管理法などの食品衛生学実習、岩手県環境保健研究センター（岩手県盛岡市）における環境汚染物質検出法などの毒性学実習、盛岡市動物公園（岩手県盛岡市）における野生動物に感染している寄生虫検出法などの寄生虫学実習、葛巻町畜産開発公社（岩手県葛巻町）における家畜の衛生管理法などの家畜衛生実習などを実施する。

東京農工大学では、既存の教育施設以外に千葉県農業共済組合や神奈川農業共済組合における診断業務に同行して、主に牛の生産病にかかる疾患や馬および豚の疾患に関する診断・治療法・予防法およびプロダクションメディスンに関する大動物臨床実習・基礎編並びに応用編の実習、全国の家畜保健衛生所、食肉衛生検査所、保健所および動物愛護センターで獣医師がかかわる行政業務を学ぶ公衆衛生実践実習を実施する。

また、5年次における総合参加型臨床実習（Ⅰ～Ⅵ）は、4年次後期に実施される獣医学共用試験（vetCBT 及び vetOSCE）の合格者のみ履修できるものとする。この実習においては、診療内容に応じた指針を遵守し（別紙7：総合参加型臨床実習ガイドライン）、原則として岩手大学獣医学部附属動物病院や産業動物臨床・疾病制御教育研究センター及び岩手大学農学部附属フィールドサイエンス教育研究センター、東京農工大学農学部附属動物医療センター及び小金井動物救急医療センターで実施する。しかし、産業動物においては、附属動物病院だけでは少人数の班編制による参加型臨床実習を効果的に行えるほどの患畜数の確保が困難であることから、近隣関係諸機関とも連携して実施する。

岩手大学においては、小岩井農牧株式会社（岩手県雫石町）、NOSAI 岩手（岩

手県盛岡市)、JA 新いわて雫石 (岩手県雫石町) に勤務する獣医師並びに開業獣医師 (岩手県滝沢市) と連携し、効果的な総合参加型臨床実習が実施できる体制とする。本実習においては学生を少人数の班編制として、ローテーション方式による実習を行い、臨床繁殖、産業動物内科・外科、群管理 (ハードヘルス) などの各分野について、それぞれの専門的技術の修得ができるようにする。なお、これらを担当する勤務獣医師及び開業獣医師は、岩手大学非常勤講師として採用する。

東京農工大学においては、附属動物医療センター内に設置されているモバイル型CアームX線装置、マルチスライスCT装置 (多断面画像診断装置)、MRI (磁気共鳴画像診断装置)、動物用内視鏡システム、各種超音波画像診断装置、小動物用人工心肺装置、超音波手術器/手術用凝固切開システムなど先端医療機器を用いて、国際的水準を満たした伴侶動物の高度診断及び治療技術を修得させる。

また、より効率的な参加型臨床実習を体現するため、少人数班制のローテーションシステムのもと、一般の外科診療と内科診療に加えて、循環器科、皮膚科、整形外科、腫瘍科、眼科・神経科、臨床繁殖科など多様な専門科診療を実習させる。

実習の最後には症例報告会を行い、その際の発表態度や質疑応答、加えて普段の実習に取り組む態度等と合わせ、実習担当教員が協議し適切に評価する。

7 就業体験実習 (学外実習) の具体的計画

広範な獣医学職域における社会的役割を理解し、学生が適切に進路選択を可能とするとともに獣医師の職域偏在化を是正するため、本共同獣医学科における学外実習は、きわめて重要なものとして位置づけられている。そのため、学外実習 (国内) 及び学外実習 (国外) を1~4年次に、選択科目1単位として開講する。学外実習の実施に際しては、開業獣医師、全国農業共済組合、中央畜産会、国・地方公共団体関係機関および海外姉妹校等と連携して行う。

学外実習 (国内) では、獣医臨床の現場や関連する施設における業務を見学・体験することにより獣医師の責務、職域並びに地域の獣医療が抱える課題等について実体験の中で理解することを目的としており、学外で活躍する獣医師の指導の下、実際の獣医療の現場における実務を体験する中で理解を深めることとしている。

また、学外実習 (国外) では、獣医師に必要な国際的視野を養うことを主目的としており、海外姉妹校への短期留学等を通じ、獣医師の業務や役割における日本との違いを体感しつつ、国際的視野を涵養することとしている。

8 取得可能な資格

本共同獣医学科を卒業することにより以下の資格又はその受験資格を取得することができる。なお、以下に掲げる資格は全て国家資格である。

- ・ 獣医師：卒業により国家試験の受験資格を取得する。
- ・ 環境衛生監視員、食品衛生管理者、食品衛生監視員、飼料製造管理者：卒業後、当該資格に関連した職務に就いた場合に取得できる。(任用資格)

9 入学者選抜の概要

(1) 入学者に求める資質（求める学生像、アドミッション・ポリシー）

岩手大学獣医学部共同獣医学科

獣医師は人類と動物の健康と福祉に貢献するという理念に基づき、高度獣医療の提供、人類の健康と食の安全、生命科学研究の発展に活躍できる国際的な視野を持つ人材を育成する。

(知識・技能・理解・思考力・判断力・表現力)

- ・ 獣医学を学ぶに相応しい基礎学力を有する人
- ・ 動物の生命現象と病態に関する課題を探究し、グローバルな視野から論理的に解決する思考力を有する人

(関心・意欲・態度・主体性・協同性)

- ・ 動物の生命現象と病態に関心を持ち、それを継続して探究しようとする意欲のある人
- ・ 自己を啓発し実行力に優れ、獣医学の発展ならびに社会に貢献しようとする意欲のある人
- ・ 獣医師として、国際的な交流・協力を推進し、世界に学び世界に貢献しようとする意欲のある人

東京農工大学農学部共同獣医学科

獣医師は、人類と動物の健康と福祉に貢献するという理念に基づき、本共同獣医学科は、高度獣医療の提供、人類の健康と食の安全、生命科学研究の発展に活躍できる国際的な視野を持つ人材を養成することを設置基盤としている。そのために、本共同獣医学科では、次の能力・資質を備えた入学者を国内外から求める。

- ・ 獣医師としての目標を持ち、獣医学の発展に貢献しようとする意欲を

持つ者。

- ・ 自然や生命現象に関心を持ち、それを探究しようとする意欲を持つ者。
- ・ 獣医師として、国際的な交流・協力を推進し、世界に学び世界に貢献しようとする意欲を持つ者。
- ・ 常に自己を啓発し、実行力に優れ、社会で貢献しようとする意欲を持つ者。
- ・ 課題を探究し、問題を解決する意欲を持つ者。

(2) 入学選抜の方法

本共同獣医学科では、一般選抜募集定員 51 名（岩手大学：20 名、東京農工大学 31 名）、学校推薦型選抜募集定員 4 名（東京農工大学：4 名（産業動物獣医師養成枠：若干名）、総合型選抜Ⅱ募集定員 10 名（岩手大学：10 名（うち 2 名は地域枠））によって、入学者の選抜を行う。入学時期は 4 月とし、入学者選抜は秋季から冬季にかけて実施する。

I. 出願資格

＜一般選抜、学校推薦型選抜及び総合型選抜Ⅱ＞

次の各号のいずれかに該当し、入学前年度の大学入学共通テストで両大学が指定する教科・科目のすべてを受験した者

- 1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び入学前年度の 3 月 31 日までに卒業見込みの者。ただし、学校推薦型選抜の出願資格は、高等学校又は中等教育学校を入学前年度 3 月に卒業見込みの者のみ。（学校教育法施行規則 93 条 3 号および認定・指定された在外教育施設の高等学校の課程を 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までに卒業又は卒業見込みの者）に限る。
- 2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者及び入学前年度の 3 月 31 日までに卒業見込みの者
- 3) 学校教育法施行規則（昭和 22 年文部省令第 11 号）第 150 条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者及び入学前年度の 3 月 31 日までにこれに該当する見込みの者（次のいずれかに該当する者）
 - ①外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者及び入学前年度の 3 月 31 日までに修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
 - ②文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有

- するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- ③専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - ④文部科学大臣の指定した者
 - ⑤高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同令附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）及び入学前年度の3月31日までに合格見込みの者で、入学前年度の3月31日までに18歳に達する者
 - ⑥学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、高等学校卒業程度認定審査規則（令和4年文部科学省令第18号）による高等学校卒業程度認定審査に合格した者
 - ⑦両大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学前年度の3月31日までに18歳に達する者

II. 入学者選抜試験

入学者の選抜は次の通り行う。選抜に際しては、アドミッション・ポリシーに基づいて行い、共通テストおよび個別学力検査においては知識・理解・思考力・表現力を判定し、面接（口頭試験を含む）においては関心・意欲・態度・表現力を判定する。また、学校推薦型選抜では共通テストの成績、学校長の推薦書、調査書及び志望理由書を総合して判定する。（学校推薦型選抜（産業動物獣医師養成枠）ではさらに産業動物獣医師又は公務員獣医師の確保を目的とした修学資金給付事業を制定している機関・団体等の推薦状により、卒業後、産業動物獣医師又は公務員獣医師として自治体等で勤務することに強い意欲を有する者であるかどうかについても判定に加える。）

<一般選抜>

- ①大学入学共通テスト
- ②大学が実施する個別学力検査
- ③調査書の内容

<総合型選抜II>

- ①大学入学共通テスト
- ②面接（口頭試験を含む）

- ③調査書の内容
- <学校推薦型選抜>
 - ①大学入学共通テスト
 - ②推薦書の内容
 - ③調査書の内容
 - ④志望理由書の内容
- <学校推薦型選抜（産業動物獣医師養成枠）>
 - ①大学入学共通テスト
 - ②推薦書の内容
 - ③調査書の内容
 - ④志望理由書の内容
 - ⑤産業動物獣医師又は公務員獣医師の確保を目的とした修学資金給付事業を制定している機関・団体等の推薦状

1 0 教育研究実施組織の編制の考え方及び特色

岩手大学は畜産の盛んな東北地方の特色を生かして産業動物臨床獣医師及び家畜衛生・公衆衛生を担う公務員獣医師の育成に力を入れている。近年の世界における獣医学教育はOIEの主導するDay One Competencyに基づき、実践教育を重要視していることから、獣医学部においては近隣の獣医関連団体と連携して少人数での実践的な実習教育を行う。また、近年の獣医師過疎地域における診療ニーズへの対応、家畜衛生対策は喫緊の課題となっており、その対応への協力依頼も年々増加していることから、地域社会に直面する問題解決型の実践実習場所として積極的に活用する。配置される教員、教育研究設備は、上記の産業動物臨床教育の充実と社会的ニーズに対応するものであり、国際通用性を持った獣医師を育成することに資するものである。

一方、東京農工大学では首都圏において人と動物を取り巻く「都市型 One Health」を推進し、社会実装を意識した研究の実施を目指している。研究は主に農学部附属施設および共同獣医学専攻に所属する常勤教職員、特任研究員及び技術職員との連携体制で実施する。

（1）教育研究組織の概要

岩手大学では現在の農学部附属施設である動物病院、産業動物臨床・疾病制御教育研究センター（FCD）、動物医学食品安全教育研究センター（FAMS）を新設する獣医学部の附属施設とし、獣医学教育の充実を図る。また、農学部とは講義・演習等の相互協力を行うとともに、教育研究においては獣医学部に移動するFCD、FAMS及び農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究

センター（FSC）の相互共同利用を推進する。

現在の共同獣医学科の教員配置数は教授 12 名、准教授 9 名及び助教 5 名の 26 名であり、現員は教授 9 名、准教授 7 名及び助教 8 名の計 24 名である。また、動物病院には教授 1 名、准教授 1 名、助教 1 名の他、特任教員 5 名、FAMS には専任教授 1 名、FCD には特任教員 2 名が所属し 35 名で教育を実施している。主要科目の担当には原則として基幹教員が充てられており、完成年度末にあたる令和 12 年度末においても欠員はないため教育研究体制に支障はない。また、本学部には教員以外にも事務系業務を担当する職員の他、研究補助を担う技術職員が所属しており、適確な役割分担のもと教員との効率的な協働が実現できる連携体制が確保されている。

なお、岩手大学では、第 4 期中期目標・中期計画及び「岩手大学ビジョン 2030」において産業動物関連教育の充実を重点事項の一つとしてそれらを強化している。

一方、東京農工大学では農学部附属施設である動物医療センター、感染症未来疫学研究センター、野生動物管理教育センター、ならびに全学施設である小金井動物救急医療センターとの連携により、獣医学教育の充実を図る。

現在の共同獣医学科における教員数は教授 10 名、准教授 18 名（うちテニユアトラック准教授 1 名）及びテニユアトラック助教 3 名の計 31 名である。また農学部附属施設のうち、動物医療センターには教授 1 名が、感染症未来疫学研究センターには教授 1 名、准教授 3 名が、野生動物管理教育センターには准教授 1 名が、さらに小金井動物救急医療センターには教授 1 名、特任准教授 1 名、特任講師 1 名が所属し、合計 40 名体制で教育を実施している。東京農工大学でも主要科目の担当には原則として基幹教員が充てられており、完成年度においても欠員はないため教育研究体制に支障はない。また本学科には事務系業務を担当する職員が 1 名所属しており、学科運営に関わる業務の分担することで効率的な学科運営を遂行できる体制が確保されている。

※別紙 8：国立大学法人岩手大学職員就業規則

※別紙 9：国立大学法人東京農工大学職員就業規則

（2）組織整備における年齢構成是正及び多様な人材の積極的な登用に向けた取組

岩手大学では、全学的な年齢構成是正に向けた取組として、テニユアトラック制度を導入し、若手教員の流動化と優秀な若手教員が継続的に研究に取

り組める環境整備に努めているほか、卓越研究員制度を積極的に活用し、若手教員の雇用を積極的に進めている。また、教員年齢構成の是正を図るため、若手研究者の採用方針を策定し、計画的な若手研究者の採用を促進することとしており、第4期中期目標期間中における若手・女性教員の採用計画を学部毎に作成し、計画的な若手教員・女性教員の採用促進に取り組んでいる。

加えて、更なる教育組織の充実を目的とし、多様な人材を確保するために年俸制、テニユアトラック、クロスアポイントメントの制度を整備し、教育研究の活性化に努めている。

一方、東京農工大学においてもテニユアトラック制度を導入して若手教員の流動化と教育研究支援に努めている他、女性未来育成支援機構を中心に女性教員の積極的な登用を推進している。また教育組織の更なる充実を目的とし、年俸制やクロスアポイント制度を整備している。

1.1 研究の実施についての考え方、体制、取組

岩手大学獣医学部における研究は、国際水準を目指しつつ、特に地域社会に貢献する独創的研究の実施を目標とする。研究は、獣医学部に在籍する常勤教職員及び特任研究員、農学部所属の常勤教職員、特任研究員、技術系職員が連携する体制で実施する。また、本学は研究支援・産学連携センターを有し、研究推進及び地域連携に係る目標・戦略に基づき、特色ある研究の推進・支援並びに学術研究の基盤強化を図るとともに、教育研究成果及び知的資産の地域への普及・還元を通じ、地域創生に取り組んでいる。当該センターに設置されているURA (University Research Administrator) ユニットでは、岩手大学の強み・特色となる学術研究や異文化融合研究等を推進するため、科学研究費助成事業の獲得及び産学官連携に係る総合的な研究支援を行っている。獣医学部は、農学部及びURAユニットとの連携のもと、全国の獣医系大学の中でも特に産業動物獣医学の教育研究に立地した特色を持つ高度な研究を推進するとともに、獣医学関連の学術研究だけでなく、地域の多様な分野のステークホルダーと連携した研究を実施可能な体制を取っており、これまでも岩手県を含む東北地域全体の発展及び復興に貢献してきたことに加え、今後も持続的な地域連携研究の発展が期待できる。

一方、東京農工大学では、国際水準を目指しつつ、特に首都圏において人と動物を取り巻く One Health を推進し、社会実装を意識した研究の実施を目指している。研究は主に農学部に所属する常勤教職員、特任研究員及び技術職員との連携体制で実施する。また、本学では研究支援課が、外部資金導入や産官学連携研究の推進、知的財産の保護などを担当し、先端産学研究推

進センター (University Research Administration Center: URAC) が重点研究プロジェクトを推進すると共に、若手教員の研究開発プロジェクトを支援している。さらに農学部には学術研究支援総合センターが設置され、共通分析機器の管理運営を担うことで本学における研究推進に役立っている。

1.2 施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

岩手大学獣医学部・東京農工大学共同獣医学科の設置にあたっては、岩手大学および東京農工大学の既存校地等を利用する。

岩手大学は岩手県盛岡市上田に約 43 万 m^2 の敷地を有し、敷地内には全天候型陸上競技場、サッカー場、球技場、野球場、テニスコートなどの屋外運動施設、屋内運動施設として2棟の体育館を整備している。また、上田キャンパスのほかに、岩手県雫石町に寒冷フィールドサイエンス教育研究センター御明神牧場(敷地面積約 54 万 m^2)を有し、本共同獣医学科に係る実習の場所を備えている。

東京農工大学では、東京都府中市に約 30 万 m^2 の敷地を有し、敷地内には体育館、総合屋内運動場、運動附属施設(ゴルフ練習場)、サッカー場、球技場、テニスコートを整備している。また、府中地区のほかに、東京都小金井市(約 16 万 m^2)にも体育館、サッカー場、野球場、テニスコートを有するとともに、都内、神奈川県、群馬県等に合計8か所のフィールドミュージアムを整備している。

(2) 校舎等の施設の整備計画

本共同獣医学科の学生は、本籍大学にかかわらず岩手大学及び東京農工大学の施設、設備等を利用可能とする。

岩手大学農学部および獣医学部が立地する岩手大学上田キャンパス南地区には、7棟の教育研究棟があり、特に共同獣医学科が講義で使用する農学部北講義棟・南講義棟及び農学部5号館講義室や、解剖実習、生理学実習に使用する農学部3号館実習室のほか、動物病院を有している。これら施設には消耗品を含む各種実験器具及び機器を十分に備えている。なお、現行の農学部附属施設のうち、共同獣医学科の臨床実習教育に参画している産業動物臨床・疾病制御教育研究センター(FCD)、臨床獣医師や公務員獣医師のリカレント教育を担っている動物医学食品安全教育研究センター(FAMS)については獣医学部の設置に伴い、農学部から獣医学部に移行し獣医学実習教育の充実を図る。

なお、移行後においても農学部とは協力関係を保ち、講義・演習等の相互

協力、教育研究において FCD、FAMS、FSC の相互利用を推進する。

東京農工大学農学部には、13 棟の教育研究棟があるほか、動物医療センター、感染症未来疫学研究センターや厩舎、牛舎等を有している。また東京農工大学小金井キャンパスには小金井動物救急医療センターを有している。なお、これら施設には消耗品を含む各種実験器具及び機器を十分に備えている。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本共同獣医学科の学生は、本籍大学にかかわらず岩手大学及び東京農工大学の図書館を利用可能とする。なお、両大学共に、図書資料の検索は OPAC システムが稼動しており、全学の所蔵資料が一元的に検索できる。

岩手大学の図書館（上田キャンパス）では、学部・研究科に関わる図書の整備を行っている。主に学術雑誌・図書を収集・提供しており、図書約 86 万冊（獣医学関係（獣医、動物、畜産など）の図書約 6,000 冊）、学術雑誌約 1 万種を所蔵しているほか、約 5,400 タイトルの電子ジャーナル契約を行っており、獣医学関係に関連する SciVerse、ScienceDirect、SpringerLink、Wiley Online library、Oxford Journals、Nature、Science などが利用可能となっている。図書館の規模等は、閲覧席数 634 席であるほか、ラーニング・コモنزのスペース整備を進めている。開館時間は、平日は 9 時から 21 時まで、土日は 10 時から 18 時まで開館している。

東京農工大学の府中及び小金井キャンパスの図書館では、各キャンパスに配置する学部や大学院の学府等の図書整備を共通して行っている。主に学術雑誌・図書を収集・提供しており、図書約 52 万冊（うち獣医学関係図書約 5,200 冊）、学術雑誌約 14,000 種（Science、Zoological Science など）を所蔵、電子ジャーナルは約 18,000 タイトル（ScienceDirect、SpringerLink、Wiley Online library、Nature、BioOne Complete など）を利用可能となっている。各図書館の規模等は、府中図書館が 364 席（床面積 3,428 m²）、小金井図書館が 532 席（床面積 3,479 m²）である。開館時間は、平日は 8 時 45 分から 21 時まで、土曜日は 10 時～17 時（府中図書館）、12 時 30 分～19 時 30 分（小金井図書館）、日曜日は 13 時から 17 時、その他授業実施日の土日祝日等は 9 時～18 時まで開館している（祝日、夏季休業等の期間中を除く）。府中図書館は館内フロアを目的別に位置づけしており、ラーニング・コモنزやバリアフリー化など順次環境整備を進めている。小金井図書館においても、グループ学習や個人向けの学習に適した多様な環境や設備を提供するため、ディスカッションスペースや個人ワークブースの設置など多様な学習環境を提供している。

1.3 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

岩手大学は JR 東北本線「盛岡駅」(バス又は徒歩) から、東京農工大学府中キャンパスは、JR 中央線「国分寺駅」(バス)、JR 武蔵野線「北府中駅」(徒歩)、京王線「府中駅」(バス又は徒歩) からアクセスできる。盛岡駅から北府中駅までは 540 k m の距離があり、新幹線を利用すれば、その所要時間は 3 時間であるが、頻繁に教員及び学生が両大学間を移動することは現実的ではない。そのため、共同科目の教育については、1. 教員の移動、2. 学生の移動、3. 対面講義と遠隔講義の同時開講による 3 つのケースにパターン化し、また、通常科目についても、1. 両大学の教員が講義を分担して開講する、2. 両大学の教員が別々に開講する、の 2 パターンに分類し、それぞれにスケジュール調整を行う。しかしながら、共同教育課程としての学生の一体感を醸成するため、4 年次以下においては年に 2 回は両大学のキャンパスにおいて講義を受講することにする。また、5、6 年次においては総合参加型臨床実習を相互に受講することとする。この間の学生の移動手段及び滞在などについては、学生の負担が少なくなるような措置を講じることとする。また、学生が移動して受講する場合は、集中的に同分野の講義・実習が受けられるように時間割などを配慮する。

1.4 管理運営

本共同獣医学科における教育・研究等に関する重要事項を審議するために、各構成大学の学長から必要な権限をゆだねられている各構成大学の基幹教員等により構成される「共同獣医学科連絡協議会」(以下「協議会」という。)が、その管理運営にあたる。協議会は、必要に応じて年 2 回程度の頻度で開催することとするが、授業科目及びこれに係る教員の配置など共同獣医学科の編成及び実施に関する基本的事項について協議、決定する。なお、共同獣医学科では、両大学に所属する教員などによる共同獣医学科会議(年 2 回)、及び両大学の教員から選出された代議員による共同獣医学科代議員会(毎月 1 回程度)を実施する。両大学の獣医学科長のうち、1 名が共同獣医学科長、1 名が共同獣医学副学科長として連絡協議会、共同獣医学科会議及び共同獣医学科代議員会の運営にあたる。協議会が取扱う主な審議事項は以下のとおりとする。

- (1) 教育研究指導教員の選定に関する事項
- (2) 入学者選抜の方針及び実施計画に関する事項
- (3) 学生の身分取扱い及び厚生補導に関する事項
- (4) 共同獣医学科に係る成績評価の方針に関する事項

- (5) 学位審査委員会の設置に関する事項
- (6) 学位の授与及び学科修了の認定に関する事項
- (7) 共同獣医学科に係る教育研究活動等の状況の評価に関する事項
- (8) 予算に関する事項
- (9) 共同獣医学科の設置に関する協定の改正又は廃止に関する事項
もしくは共同獣医学科の設置に関する協定の運用に関する事項
- (10) その他両大学が必要と認めた事項

1.5 自己点検・評価

岩手大学、東京農工大学とも、これまでは、それぞれの大学において教員の資質向上に関するファカルティ・ディベロップメント (FD) の活用等も含めて自己点検・評価を実施してきた。

本共同獣医学科では、岩手大学に設置されている「教育研究評議会」、東京農工大学に設置されている「全学自己点検・評価委員会」とも連携し、協議会の下で定期的に自己点検及び自己評価を行い、併せて第三者による評価を実施する。点検・評価結果は各大学に報告するとともに公表することとする。

なお、両大学のこれまでの自己点検及び自己評価の実施体制、実施方法、評価結果の公表及び活用方法については以下のとおりである。

(1) 実施体制及び実施方法等

岩手大学では、学校教育法第109条第1項の規定に基づく自己点検・評価について、「国立大学法人岩手大学自己点検・評価規則」及び「岩手大学内部質保証に関する実施要項」を定め、教育研究評議会の統括のもと定期的に自己点検・評価を実施している。

内部質保証体制の構成組織（以下「部局担当委員会」という。）には、各学部・研究科の教育課程の内部質保証を管轄する学部点検評価委員会等をはじめ、教養教育を含む学士課程全般の企画調整を行う岩手大学教務委員会、大学院課程全般の調整を担う大学院委員会を置き、さらに教育研究活動に係る施設及び設備、学生支援並びに学生の受入に関する内部質保証を管轄する全学委員会を定めている。

自己点検・評価の実施にあたっては、上記実施要項に基づく「自己点検・評価のガイドライン」を定めており、部局担当委員会は設定された評価項目・評価基準に則して点検・評価を行い、教育研究評議会は部局担当委員会が実施した点検・評価の結果に基づき、全学的な内部質保証の実施状況の確認及び内部質保証に関する取組の検証を行っている。自己点検・評価の結果、内部質保証に係る改善事項が認められた場合は、教育研究評議会において当該部局委員会

に改善の要請を行い、改善に向けた対応状況を確認することとしている。

東京農工大学では、全学的な自己点検・評価について、東京農工大学学則第12条において、「本学は、その教育研究水準の向上に資するため、本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行うとともに、教育内容及び教育方法の改善について組織的に取組み、その結果を公表するものとする」こと、及び東京農工大学組織運営規則第17条で役員会を置くこと、第21条で大学経営戦略会議を置くこと、第21条の2で役員会及び大学経営戦略会議の下に全学計画評価委員会を置くことを定め、全学計画評価委員会において、東京農工大学大学評価実施規程に基づき教育研究等の状況に係る自己点検・評価を実施している。

全学計画評価委員会には、教育・学生生活委員会、入学試験委員会、研究推進委員会、国際交流委員会、広報・社会貢献委員会、大学情報委員会、環境・安全衛生委員会、施設整備委員会、図書館商議会の九つの全学委員会を置き、自己点検・評価等の大学評価に対応している。

このほか、部局等において、教員の業績評価を行っており、その評価結果を全学的に審議・承認する機関として教員評価機構を設置している。

評価項目及び実施方法について、東京農工大学では、全学計画評価委員会において、中期目標・中期計画に関する自己点検・評価として、年度計画（アクションプラン）の策定と取組状況の確認及び進捗の公表（アクションレコード）を毎年度、実施している。

また、教育研究水準の向上に資するため、東京農工大学自己点検・評価実施細則を定め、学生の受入、学生支援、施設整備、教育課程と学修成果に関する自己点検・評価を、全学計画評価委員会において、毎年度実施している。

認証評価については、直近では、令和2年度に受審しており、全学自己点検・評価小委員会において、認証評価項目に沿った自己点検・評価を実施し、「自己評価書」として取りまとめた。また、経営系専門職大学院の認証評価を令和元年度に、分野別認証評価として獣医学教育の認証評価を令和3年度に受審しており、それぞれの部局で自己点検・評価を実施している。

このほか、毎年度、常勤教員を対象とした教員業績評価を実施している。教育、研究、社会貢献・国際交流、管理運営の各領域の諸活動について、部局等において教員の諸活動に対する評価（教員業績評価）を実施し、部局等の評価が適切に行われているか、教員評価機構において評価結果を審議・承認している。

（2）評価結果の活用・公表

岩手大学では自己点検・評価の結果について、「内部質保証体制における自

己点検・評価の実施結果」として総括を作成し、教育研究評議会の審議を経て本学ウェブサイトで公表するとともに、部局担当委員会に評価結果のフィードバックを行い、教育の質保証・改善に向けた検討に活用している。また、教育研究評議会から要請した改善事項については、年度末に当該部局委員会から進捗状況の報告を受け、改善に向けた検討及び施策を行われているか確認・検証を行うことで実効性のある内部質保証の維持・向上に努めている。

東京農工大学では、東京農工大学大学評価実施規程に基づき、実施した自己点検・評価について、その報告書及び評価結果を、本学ウェブサイト等で公表している。

なお、共同獣医学科では公益財団法人大学基準協会による獣医学教育に係る分野別認証評価を定期的に受審することとしている。直近では令和3年度に分野別認証評価を受審し、獣医学教育に関する基準に適合していると認定された。その評価結果は獣医師養成機能の高度化に向けて教育課程及び教育体制の改善・向上に活用している。

1.6 情報の公表

岩手大学、東京農工大学ともに、これまではそれぞれの大学のホームページや広報誌の発行等を通じて、広く社会へ情報の提供を行ってきた。本共同獣医学科では、各大学の情報提供を活用するとともに、共同獣医学科専用のホームページを作成し、主にそのホームページを利用して共同獣医学科に関わる情報を配発信していく。本共同獣医学科における教育研究活動全般等について、社会への説明責任を果たすため、情報の提供方法を含め「広報に関する事項」について協議会の下で協議し、広く社会へ情報提供を行っていく。

なお、両大学のこれまでの情報の提供方法については以下のとおりである。

(1) 岩手大学の情報の提供

岩手大学では、大学情報の公開・提供及び広報について、担当理事を置き、社会貢献、公開講座、産学官連携、教育研究成果等の情報を積極的に学内外へ発信している。

具体的な情報提供活動は、以下のとおりである。

1) ホームページによる情報提供

- ①大学紹介(岩手大学の理念と教育・研究・社会貢献の目標、組織図等)
- ②大学運営情報(中期目標・中期計画・年度計画、財務諸表、岩手大学環境方針、岩手大学における研究者行動規範等)
- ③学部・大学院の情報(カリキュラム、入試情報、課程・学科案内等)
- ④研究者情報(専門分野、研究題目、主要な著書・論文等)

- ⑤入試情報（入試日程、アドミッションポリシー等）
- ⑥就職情報（就職関連イベント情報、卒業生の進路状況等）
- ⑦資料請求・問い合わせ先

上記の他、「学校教育法施行規則第 172 条の 2」に基づき、岩手大学の教育研究活動等の状況に係る以下の情報を公表しています。

- ア 大学の教育研究上の目的及び3つのポリシーに関すること
- イ 教育研究上の基本組織、教育研究実施組織に関すること
- ウ 教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
- エ 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
- オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
- カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
- キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
- ク 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
- ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

掲載アドレス：<https://www.iwate-u.ac.jp/academics/index.html>
(大学 HP トップ>情報公開>教育研究活動等の状況に係る情報の公表)

2) 広報誌・印刷物等による情報提供

- ①大学概要（OUTLINE of Iwate University）、岩手大学案内等のパンフレット
- ②広報誌
- ③各施設等によるニュースレター

3) TV 番組による情報提供

- ①TV 番組による情報提供
- ②IBC 岩手放送による岩手大学紹介テレビ「ガンダイニング」の放送（放送期間：9月～1月）

4) その他

- ①公開講座等の実施
- ②オープンキャンパスや入試説明会の開催、キャンパスツアー等

(2) 東京農工大学の情報の提供

東京農工大学では、大学情報の公開・提供及び広報について、担当理事を置き、社会貢献、公開講座、産官学連携、教育研究成果等の情報を積極的に学内外へ発信している。

具体的な情報提供活動は、以下のとおりである。

1) ホームページによる情報提供

- ①大学ホームページを活用した、大学憲章、入試情報、各学部、大学院等の概要、教育目標等、教育課程、シラバス、学生生活、研究者情報、自己点検評価等の広範囲に渡る情報提供
- ②各学部・大学院の学府・研究科や学科・専攻のホームページによる、教育・研究等の情報提供
- ③学報の配信
- ④公式 SNS (X、Facebook、YouTube、Instagram、LINE) を活用した最新情報の配信

2) 広報誌・印刷物等による情報提供

- ①大学概要、大学案内（入学者向け）等のパンフレット
- ②入試情報の発行
- ③ニュースレターの発行

3) その他

- ①公開講座等の実施
- ②各学科等による体験教室の開催
- ③オープンキャンパスの開催
- ④キャンパスツアー等
- ⑤学外にて開催される入試説明会への参加

1.7 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

岩手大学、東京農工大学とも、これまではそれぞれの大学において教員資質の向上のためにさまざまな方策を実施してきた。本共同獣医学科では、両大学において実施している FD の活動内容とその結果を両大学間で共有し、その活

動を効果的に本共同獣医学科の教育効果の向上に活用することを目的とし、協議会において「FD 推進に関する事項」を協議することとしており、各構成大学の FD に関する取組内容を共有管理・相互公開し、教員資質の維持向上に努めることとする。

具体的には、両大学の FD 活動内容を参考に、以下の事項等について推進していく。

岩手大学では教学マネジメントセンターを中心に、教育内容等の改善を図る取組を実施している。具体的には、教養教育科目の授業アンケートとその結果分析による PDCA サイクルの推進、教養教育科目優秀授業担当教員の表彰制度、教員の FD 研修や事務職員の SD 研修を実施している。

さらに、獣医学教育研究の改善に資する目的として、新カリキュラム案についての学科内検討会および獣医学教育の充実に向けたデジタルフォーメーション(DX)の活用法についての企業セミナー、企業における研究の現状・展望等についての講師を招聘した研修会等を開催している。

また、鹿児島大学および北海道大学の欧州獣医教育評価機関(EAEVE)認証取得に向けた取組、ならびに帯広畜産大学の産業動物臨床教員からみた国際認証審査の評価等などの最新の情報を入手することに努め、FD 研修会等で教員に周知することで教員の資質向上に努めている。

また、東京農工大学では、グローバル教育院などにより FD 研修の企画、運営を行っている。

具体的には、毎年の新任教職員研修やグローバル化への支援事業としての英語による研修のほか、授業アンケート、卒業生・修了生アンケート、学生生活実態調査などの各種学内アンケートを通し、教育状況や大学環境に関わる情報を収集、分析し、その結果を踏まえて、FD の企画・運営を行っている。

また、多様な学生の要求に応えることができる最先端の学修環境の整備として、オンライン授業システムと学務システムの連携を容易にするなど、DX 時代に対応するとともに新たな機能を持つ学修支援・学務システム「SIRIUS(シリウス)」を 2023 年 10 月から運用を開始した。各教員がシステムをスムーズに授業等で活用できるように、管理・協力教員からなる支援体制を組織してサポートを行っている。そのほか、職員に対しては職員に必要な知識・技能を習得させるとともに、必要な能力及び資質を向上させるための研修として、初任職員研修、中堅職員研修、SD 研修、英語研修、パソコン研修等を実施しているほか、他機関(関係省庁、近隣大学等)が実施する研修への参加の機会を確保している。

1 8 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

岩手大学、東京農工大学ともに、獣医師としての高い倫理性や論理性を基盤としつつ、社会が求める獣医師の多様な職域に適合したキャリア形成を実施してきた。本共同学科におけるキャリア形成支援の目的は、獣医師に関わる多様な社会的要請の実情を低学年段階から学生に情報提供し、専門職としての獣医師になる自覚を早期から持たせることにより、具体的職業に直結している職業教育を効果的に行うことである。両大学の教員はそれぞれの専門分野に関連する獣医現場を意識しながら、講義・実習内容を組み立て、獣医学と社会的・職業的な関わりを指導する。就職に関する情報は両大学のキャリア支援部門で共有し、社会からの人材供給要請に応ずることになる。

なお、両大学のこれまでの社会的・職業的自立に関する指導等及び体制については以下のとおりである。

(1) 岩手大学における取り組み

1) 教養教育での取り組み

岩手大学では岩手大学教務委員会及び岩手大学学生支援委員会で定めたキャリア教育方針の下、教養教育において、教学マネジメントセンターと地域協創教育センターが連携し、キャリアを考える、地域協創入門、企業経営学、デザイン思考入門等、自律的なキャリアのデザインに必要な知識と主体的に進路を選択する能力を養成する科目を開講している。

2) 専門教育での取り組み

岩手大学ではこれまで獣医師としての高い倫理性や論理性を基盤としつつ、社会が求める多様な職域に適合した獣医師を育成してきた。近年の獣医学教育においてはOIEの提唱する「新卒者が備えているべき最低限の資質能力の必要性 (Day One Competency)」を達成するために、獣医臨床教育及び家畜衛生・公衆衛生学教育を中心により実践的な実習教育が求められている。これらを実現するために、全国獣医系大学関係者協議会が主体となり、2017年から医・歯学部及び薬学部と同様に、獣医臨床教育における「診療行為に参加する学生の事前評価について社会的信頼を得る仕組み」として獣医学共用試験を課し、試験に合格した学生のみがスチューデント・ドクターとして、実際に獣医臨床現場にて実施する参加型臨床実習及び国・地方行政機関等において実施する家畜衛生・公衆衛生に関する、より実践的な実習が可能となるシステムを構築した。獣医学部では、これらの参加型実践実習をより充実させるために、低学年時からの専門教育を実施することで、4年時終了までに獣医学モデル・コアカリキュラムに指定されている講義科目を修学させ、5, 6年次においては参加型臨床実習

及び行政機関における実践実習、将来の研究者育成に関するアドバンス科目等を配置するカリキュラム改正を検討している。本カリキュラム改正により、充実したハンズオン実習が実施可能になり、現在世界で求められている Day One Competency を満たした国際通用性のある獣医師の育成が可能となるとともに、高学年次には獣医師に関する多様な社会的要請の実情に実際に触れることで、社会に求められている専門職としての獣医師になる自覚を涵養し、将来の獣医学教育を担うリーダーとしての獣医師育成を行う。

近年、産業動物臨床獣医師および家畜衛生・公衆衛生獣医師の育成が我が国の喫緊の課題となっている。そのために岩手大学では文部科学省の支援を受け、令和4年に農学部附属産業動物臨床・疾病制御教育研究センター（FCD）を設置した。獣医学部では、FCD を中心として産業動物臨床、家畜衛生・公衆衛生分野の教育を充実する。その結果として、学生に当該分野への指向を涵養し、将来的に我が国における産業動物獣医師及び家畜衛生・公衆衛生獣医師不足、並びに産業動物獣医師の質の向上が期待される。このことは、我が国における畜産物の安定供給に寄与し、食の安全・安心を推進することにつながる。

獣医学部の教員はそれぞれが担当する専門分野に関連する獣医現場を意識しながら、講義・実習内容を組み立て、社会的・職業的な自立を指導する体制をとっている。各教員が関係する大学間・国・地方自治体（岩手県、八幡平市、葛巻市、久慈市、など）・農業団体（NOSAI、JA など）との連携のもと、産業動物獣医学教育の共同利用拠点として設置された FCD を中心に、岩手大学の学生はもちろん、首都圏・東北、さらに全国の獣医系大学の学生に、高度獣医療技術、感染症制御対策を取り入れた実践的・総合的な産業動物獣医学教育を提供することができる。国内ではこうした事業はこれまでに例がなく、産業動物臨床教育の機会が不十分な他大学の獣医学生も、しかるべき実践教育を受けることで産業動物分野への理解・志向が涵養されれば、既に顕在化している産業動物獣医師（産業動物臨床獣医師及び地方自治体の家畜衛生・公衆衛生獣医師）不足に歯止めがかかり、職域偏在・地域偏在の是正に継続的に貢献できる。また、本学部が提供しようとする獣医学教育は学部学生だけでなく、現役獣医師、離職・休職中の女性獣医師等も含めた卒後教育の促進・充実をも目的としており、各世代の獣医師の質的・量的な向上が期待される。同時に本学教員は、産業動物臨床獣医師の不足している地域において診療活動を実施する等社会貢献を行っており、それらの診療も総合参加型臨床実習に位置付けることで、学生に対して産業動物臨床獣医師に関する社会的・職業的自立に関する意

識を涵養している。

さらに、学生に獣医師の職域の広さと重要性を認識させ、将来の就業を視野に入れ、講義・実習との具体的関わりを実感させることを目的とし、5年次以下の学生に対し年一回就職ガイダンスを実施している。その内容は、産業動物臨床、小動物臨床、家畜衛生・公衆衛生公務員、動物園、海外青年協力隊、医学部実験動物に関係する獣医師等から、4～5分野について当該分野の仕事の内容等について現場の実情を紹介するものである。

3) 教育課程外の取り組み

岩手大学では学務部学務課地域共創教育室にキャリア教育グループを置き、就職のみならず低学年からのキャリア観醸成にも力を入れ、学生のキャリア形成支援を行っている。

具体的には対象学年指定及び全学年対象のキャリアガイダンスを年間40回程度実施している。これにより学生の学修並びに自己研鑽意欲を高め、就業に向けた職業観を涵養するとともに学生が自身のキャリアを自ら計画、設計するための能力を育成する。さらに、企業や自治体関係者を大学に招いての合同就職説明会や個別の業界研究会・就職説明会、キャリアカウンセラーによるキャリアカウンセリング等を実施し学生のキャリア形成に必要な多様な支援を継続的に実施している。

(2) 東京農工大学における取り組み

東京農工大学農学部共同獣医学科では、現在社会での獣医師の役割を十分に認識し、卒業後には高度な専門知識と技術を持った獣医師としてその責務を果たすことを目指して、低学年の時から指導を行っている。具体的には、新入生のオリエンテーションにおいて、複数名の異なる獣医学分野で活躍している社会人獣医師による講演会を行っている。講義科目では、獣医学概論及び獣医倫理で、獣医学（獣医師）の果たすべき役割及び倫理について教育している。その他には、共同獣医学科の就職担当教員と各研究室の教員が直接学生と面談して、卒業後の進路指導を適切に行っている。